今治市民活動センターだより

●今月の特集●NPO 現場体験ツアー
だるまがえるが育むお米･収穫祭　レポート

夢サラダ Vol.55

2013. 11. 1 発行

市民活動の拠点を目指しています。
「今治市民活動センター」
指定管理者：(特非) 今治NPO サポートセンター
【お問合せ】TEL/FAX　0898 - 25 - 8234
E-mail imanpo@nifty.com

東日本復興支援ボランティア　チーム今治・活動報告会

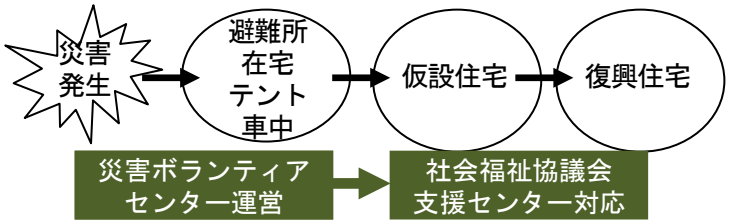
甚大な被害をもたらした東日本大震災。被災地では復興に向けた歩みが始まっています。生活の安定には長い道のりが予想される中、遠く離れた地域からは様々な形での支援活動が続いています。現地へボランティアを送迎する「ボランティアバス」もその一つ。今治 NPO サポートセンター・今治市ボランティア団体連絡協議会は協働し、活動希望者を公募。これまで3回の運行で延べ 53 名を被災地へ送ってきました。

本報告会は3年半が経過した被災地について、現地を訪れたメンバーが見聞きした現状を伝え、そこで暮らす人々の「今」と「これから」を考えたいと企画。50 名余りの方と共に、私たちにできることを考えました。

東日本大震災復興支援 ボランティアバスって？

愛媛県が拠出した 1,000 万円に、県民・企業等からの寄附を合わせ「えひめ愛顔助け合い基金」を創設。この基金を利用して、「ボランティアバス」は運行されました。「食事、移動、宿泊は自分で調達する」ことが基本のボランティア。バス運行は、東北という遠路の交通費軽減、また物資等をバスに積み込んでの有意義な活動を実現しました。

移り変わる被災者の生活状況



被災地で長引く仮設住宅での暮らし。生活再建の柱となる「住まい」について、今、転換期に差し掛かっています。岩手、宮城、福島の 3 県では、仮設住宅に住む住民向けに復興住宅を 2 万 4200 戸用意。自力での住宅再建が難しい方のために自治体が設置する公営住宅で、所得基準はあるものの家賃負担が発生します。また、入居にあたっては、コミュニティ形成、二重ローン問題等、課題はより複雑化。在宅の被災者へ届きにくい支援、就労困難による生活困窮世帯の増加といった課題も見えてきています。

渦中の被災者のつぶやきを、愛媛県社会福祉協議会・喜安恒賀さんにご紹介いただきました。

・イベントや振る舞いはもういい。早く日常を取り戻したい。
・長い避難生活で料理の仕方も忘れたよ。
・復興を期待されて気持ちが重い。
・絆や仲間という言葉は聞き飽きた。

つぶやきから見えてくるのは、ボランティアの姿勢を問うもの。「行った支援は被災した方々を本当に勇気づけただろうか」「被災者の生活に寄り添い、被災者の自立を尊重した活動だっただろうか」、個々人が問いかけました。

これなら、元気と笑顔を届けられる！

報道で知ったあの日の災害。モニターから飛び込んでくる光景を前に「義援金を送ろう。それくらいしかできない」、当時の思いをこう振り返ったのは、ボランティアバスのリーダーの一人、渡辺小百合さん。現地での活動に動機付けたのは、岩手県宮古市からの声だったそう。「“タオル1本でできる『今治タオル体操』をテレビで見た！仮設住宅でやりたい！！」タオルの町・今治で取り組む「今治タオル体操」の普及活動。いつもイベントや施設で行う「出前体操」が、被災地の生活の支援になるのなら･･･。活動の大きな柱となりました。

チームワークを構築

「24時間、揺られて行くボランティアバス。この時間が仲間意識をつくった」と語る、もう一人のリーダー・近藤健太郎さん。大学仲間、同僚等での利用が一般的なボランティアバス。今治からのバスは公募型。初対面の人とグループをつくり、現地へ向かう。力を合わせての清掃活動、思いを込めた植樹と、チームプレイで取り組まなければ、限られた時間で効果は発揮できません。休み休み向かう道中はメンバーが知り合い、モチベーションを高める時間となったそう。参加者の動機は多様ながら、復興を願う思いは一つです。

報告会参加者の声

・「得たことの方が大きい」活動者の皆さんの言葉が身にしみた。
・伝えていただかないと分からないことばかり。聞けてよかった。
・現地に足を運ぶ大切さを感じた。

NPO 現場体験ツアー―だるまがえるが育むお米・収穫祭

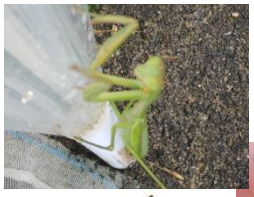
人の営みによって受け継がれてきた里地里山の自然環境が、今、危機にさらされています。過疎化・高齢化により、増える耕作放棄地。荒廃農地は周辺の環境にも大きく影響を及ぼします。「大三島の自然を守る会」(大三島町・菅則子代表)では、地域の里山・干潟・海などの手入れ、生き物観察会など、様々な活動・作業を行い、地域の保全に努めています。2年前からは、放棄地を利用して、田んぼ作りもはじめました。

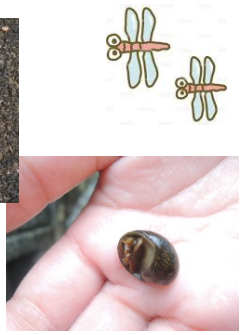
思いのこもった・稲の収穫

夏から秋に季節が移り、「守る会」の田んぼの稲穂も色づいてきました。この田んぼは、希少生物の「ダルマガエル」のすみかとなっているところです。作付けをはじめて、2年目。去る9月1日(日)、2回目となる「稲刈り」に参加させていただきました。題して「NPO 現場体験ツアー」。地域住民が一丸となって取り組む活動を参画型で学ぶ取り組みです。夏休み最後の日曜日とあって、小学生を中心に親子等、30名が参加してくれました。

まずは「守る会」から、鎌の使い方をおそわりました。はじめて持つ鎌、田んぼに入るのもはじめての子ども達も。とまどいながらも一人一人チャレンジです。腰をおとし、足をしっかり踏ん張りながら、丁寧に刈り取っていきます。10本をまとめ、縄でしばる作業は大人と一緒に協力。要領を得て、小学校低学年の子ども達も上手に刈り取っていきました。

お母さんの手さばきを▸
見てチャレンジ。





稲をかっていくと、かえるがピョンピョンはねます。お目当ての「だるまがえる」でしょうか。ここは専門家の出番。「守る会」と共に、保全活動に協力する「NPO 法人森から続く道」の小澤潤先生が確認。ペロンとお腹が上になるように、かえるをひっくりかえします。お腹が白いと「トノサマガエル」。「ダルマガエル」は黒い斑点があるんだそう。子ども達は夢中で探します。しかし、なかなか「ダルマガエル」は見つからない・・・。子ども達が数十匹は捕まえ、「あ～、また違った」と落胆しては逃がします。「トノサマガエル」も、実は身近な田んぼから姿を消している生き物。でも、この田んぼにはしっかり戻ってきています。周りには、バッタやとんぼ、いなごなどもたくさん生息していて、 虫取り網が欲しいって声も。

Check

トノサマガエルとダルマガエルの見分け方
お腹に色の注目！

トノサマガエル

ダルマガエル

この日を迎えるまでに・・・

土づくり、水入れ・田植えから、やっとの思いで迎えたこの日。「守る会」の皆さんの感慨はひとしお。そう、稲ができる道のりは長い！田んぼには、稲の他にもたくさんの雑草が生えてきます。通常は除草剤をまいてしまいます。しかし、この田んぼは無農薬。「守る会」では、まさに人海戦術で、田植えと同様、一本ずつ草を抜き取っていきました。この作業が本当に大変。しかし、皆の力を結集し、無農薬に努めてきたおかげで、ゲンゴロウやミズカマキリといった水生昆虫も戻ってきています。

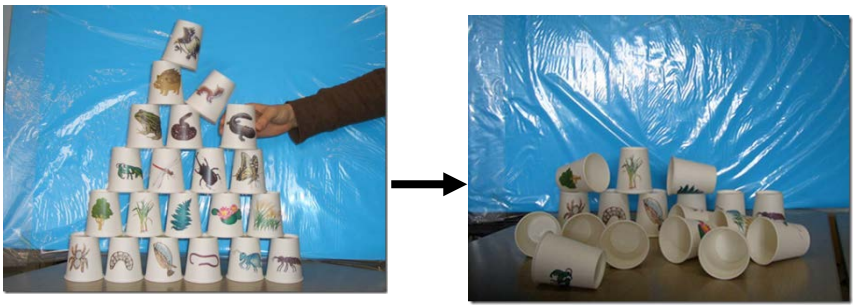
ランチタイムは新米もいただきました！

力を合わせての収穫。1時間程で完了しました。みんなにっこり笑顔です。収穫したお米は、どうやったら食べられるの？「今日、刈り取ったのを、食べられるの？」なんて思っている子ども達も。収穫した稲は、乾燥し、もみをとり・・・と、私たちの手元に届くような状態になるにはまだまだ作業がたくさんあります。何気なくいただいているお米に、農家の皆さんの愛情と時間がたっぷりかっていることを学ぶ子ども達。

この日は何とラッキーなことに、「守る会」が先に収穫したお米でランチを準備してくれました。参加者みんなが、今年はじめての新米！一緒にいただいたかぼちゃの煮物、いもの天ぷら等の秋野菜も、全部、お母さん達の畑でとれた地野菜。朝、畑でとってきて、食卓に並べてくれた贅沢なランチタイムとなりました。

生物多様性の意義をフィールドで体感

ランチタイムを利用して、小澤潤先生からのミニ講座。子ども達には少し難しい「生物多様性」がもたらす恵み、保全の大切さを分かりやすく説明くださいました。食料や水、気候の安定等、今の私たちの暮らしは、多様な生き物が関わり合うことで成り立っていること、人間もその生き物の一つであることを学びました。



▲遺伝子・種のバランスで成り立つ暮らし。崩れてしまう危機に！

今、猛スピードで生き物が姿を消している・・・。ここ大三島は多様な生物の生息が確認されるホットスポットです。せっかく訪れた大三島。フィールドに出てみよう！現場体験のフィナレーは、田んぼから続く干潟を観察です。兵庫県相生市では天然記念物指定のシバナ、愛媛県と徳島県の数箇所にしか生息しないチャボイ、塩田跡に大群落するカワツルモ等を教えていただき、参加者一同、大きな発見と感動をいただきました。

参加者の声…

大人の感想

○今日の体験は子どもが成長する上で必要なことだと感じた。
○地域の人が中心の活動で、他ではあまり体験できないと思った。
○貴重な生き物を守り、次の世代へ残すために、できることを考えたいと思った。

子どもの感想

○いろいろな生き物がいることが、人の生活につながっていることがわかった。
○ダルマガエルを見つけたかった。また、大三島に来たい。

平成 25 年度 2 次募集

市民が共におこすまちづくり事業

団体決定！

去る 8 月 28 日（水）、「市民が共におこすまちづくり事業」2 次募集のプレゼンテーション（公開審査）が今治市役所で開催されました。2 次募集では H25.7.1～H26.3.31 の期間の事業が対象となり、各団体が 4 分間という限られた時間の中、提案事業をアピールし 4 つの事業が採択されました。
各団体の事業内容をご紹介します。

ハズミズム 2013

ハズミズム
代表　豊島　吾一

「家族をテーマにした新しい音楽・アートイベント」を開催。全国から名のあるアーティストを招き、音楽を楽しむことが難しい子育て中の親子に良質な音楽を届ける。また親子で楽しめるワークショップ等も盛り込み、独自性のあるイベントとする。

11/3（日）に市民の森で開催。親子一緒に気兼ねなく音楽を楽しめる工夫が満載！親子で参加してみましょう♪

今治漁師町六次産業化推進事業

浜の夏祭り実行委員会
会長　河野　義光

北浜漁港に至る岸線の漁師町エリアの活性化を目的に、「浜の夏祭り 2013」を開催。瀬戸内・今治の魚のﾌﾞﾗﾝﾄﾞ力を向上するｵﾘｼﾞﾅﾙ商品「あこラーメン」の開発にもチャレンジ。検討会を開催する等、外部の協力も仰ぎながら、活性化への調査研究・未来構想作りを行う。

漁師町を市民の皆さんにオープンな町になるよう目指しています。これからの活動に目が離せません。

今治湯ノ浦おんせんしいたけまつり

今治湯ノ浦おんせんしいたけまつり実行委員会
会長　正岡　勝

全国でも珍しい「温泉シイタケ」を湯ノ浦温泉の特産品として内外にアピール。また子ども達の「食育」をテーマに「今治湯ノ浦おんせんしいたけまつり」を開催する。同時に、湯ノ浦を拠点とする FC 今治の選手によるサッカー教室などコラボ企画も開催。

温泉シイタケ、サッカー選手との交流と盛りだくさん！桜井総合運動公園他で平成 26 年 3 月開催予定。

自転車旅行者おもてなし大作戦

NPO 法人シクロツーリズムしまなみ
代表理事　吉武　優子

地元住民有志が主体的に参画する「自転車の休憩所“しまなみサイクルオアシス”」。多様なオアシスの担い手の思いを市民に啓発するために、オアシス見学会の開催・オアシス新聞を作成。担い手間の横のつながりを作り、共同運営への体制変更を目指す。

“しまなみサイクルオアシス”の充実・増数によって、ますますサイクリストに優しい今治になりそうです。

市民が共におこすまちづくり事業とは？

市民自らが企画・実施する継続性のあるさまざまなまちづくり事業に、今治市が 1 団体 1 事業につき最大 50 万円を助成する事業です。
他団体との協働によりそれぞれの特性を活かしてより効果的に事業を行うスタイルも対象となります。（最大 100 万円）